

●日本の主な火山活動

平成 17 年（2005 年）6 月の主な火山活動は次のとおりである。

【噴火した火山】

- ・ 桜島 : 2 日に爆発的噴火が発生した。比較的静穏な噴火活動が続いている。
- ・ 諏訪之瀬島 : 5 月 30 日（前期間）に始まった活発な噴火活動は 6 月 3 日まで続いた。

【活動が活発な状態にあるか、もしくは観測データ等に変化のあった火山】

- ・ 十勝岳 : 62-2 火口は噴煙活動が活発で、高温状態が続いている。
- ・ 樽前山 : A 火口は高温状態が続いている。また、B 噴気孔群も高温状態が続いていると推定される。
- ・ 浅間山 : 昨年 9 月以降 11 月まで見られたような爆発的噴火が発生する可能性は低くなったことから、火山活動度レベルを 3 から 2 に引き下げた。しかしながら、山頂火口の噴煙活動は引き続き活発で、微弱な火映がたびたび観測され、火山性地震及び微動のやや多い状態は依然として続いている。
- ・ 三宅島 : 火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、2004 年秋以降、1 日あたり 2 千～5 千トン程度で、依然として多い状態が続いている。
- ・ 阿蘇山 : 中岳第一火口浅部の熱的な活動は引き続き活発で、期間を通して火口底の一部で赤熱現象が観測された。
- ・ 霧島山 : 御鉢火口の噴気活動は依然としてやや活発な状態が続いている。
- ・ 薩摩硫黄島 : 火山活動はやや活発な状態が続いている。
- ・ 口永良部島 : 火山性地震及び微動のやや多い状態が続いている。

【その他】

- ・ 秋田焼山 : 新たな噴気活動の目撃情報があったが、調査の結果、火山活動に特段の変化があったことを示すものではないと考えられる。

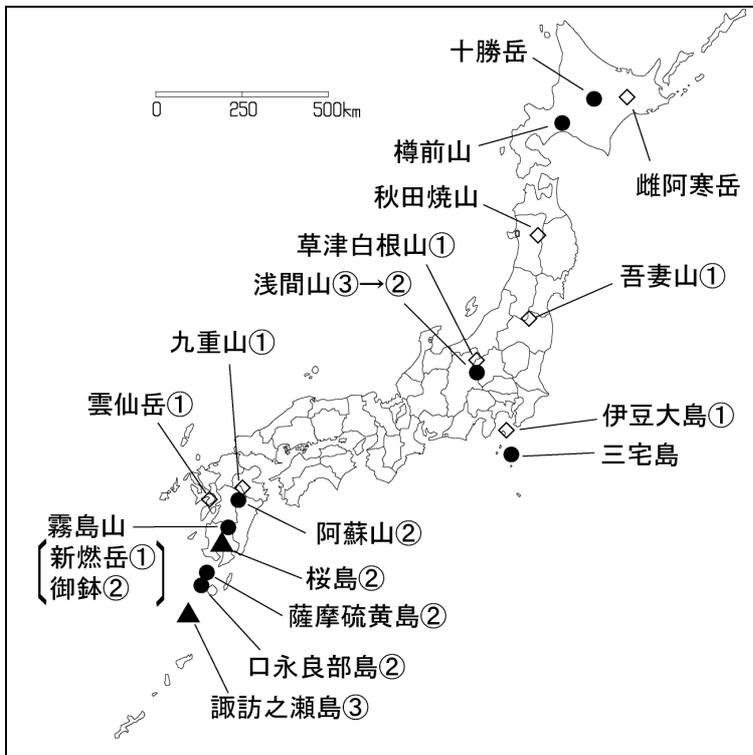


図 1 今回記事を掲載した火山

末尾の資料

- ・ 過去 1 年間の火山活動の状況
- ・ 期間中に発表した火山情報の一覧表
- ・ 第 101 回火山噴火予知連絡会コメント及び統一見解

注 1 記号の意味

- ▲ : 噴火した火山
- : 活動が活発な状態にあるか、もしくは観測データ等に変化のあった火山
- ◇ : その他記事を掲載した火山
- ①②等の丸付き数字 : 火山活動度レベル

注 2 各火山の活動解説における [噴火・爆発・地震・微動・地殻変動等] は、主な火山現象もしくは変化があった観測データ項目。

各火山の活動解説

◇ 雌阿寒岳 （比較的静穏な状況）

ポンマチネシリ 96-1 火口は高温状態が続いていたが、2000 年以降徐々に低下傾向が認められていた。5 日～10 日に実施した調査観測では、同火口の温度は約 300℃¹⁾で、前回（2004 年 10 月約 340℃¹⁾よりさらに約 40℃低下しており、同火口としては平常時のレベルまで下がったと考えられる。

噴煙活動は 2000 年以降やや低下した状態が続いており、火山性地震及び微動の発生状況も静穏な状態が続いている。GPS による地殻変動観測でも火山活動に関連すると思われる変化は見られなかった。

1) 赤外放射温度計による。赤外放射温度計は物体が放射する赤外線を感じて温度を測定する測器であり、熱源から離れた場所から測定することができる利点があるが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合がある。

● 十勝岳 （やや活発な状況）

【噴煙・熱・微動】

62-2 火口の噴煙活動は活発な状態が続いており、噴煙の高さは火口縁上概ね 200m で推移した。20～23 日に行った調査観測では、62-2 火口の最高温度は約 300℃²⁾で引き続き高温であった（前回 2004 年 9 月 12 日は約 200℃²⁾）。期間中、噴煙活動に特に変化が見られていないことから、同火口の熱的な活動にも大きな変化はなかったと考えられ、高温状態が続いていたと推定される。

28 日 13 時 17 分頃から継続時間約 1 分の振幅の小さな火山性微動が観測された。微動の発生源は 62-2 火口周辺と推定される。微動発生時、62-2 火口の噴煙の状況に変化は見られず、地震活動や地殻変動にも特段の変化はなかった。火山性微動が観測されたのは昨年 11 月 17 日以来であった。

期間中、地震活動には変化はなく、GPS による地殻変動観測では火山活動に関連すると思われる変化は見られなかった。

2) 赤外熱映像装置による。測定距離 160m。赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感じて温度分布を測

定する測器であり、熱源から離れた場所から測定することができる利点があるが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合がある。

● 樽前山 （やや活発な状況）

【熱】

29 日に実施した調査観測では、A 火口³⁾の温度は約 580℃¹⁾（前回 5 月 25 日は約 560℃¹⁾）で高温の状態であった。

B 噴気孔群³⁾は前期間と比べ噴煙の状態に変化がなかったことから、同噴気孔群の熱的な活動にも大きな変化はなかったと考えられ、高温の状態が続いていたと推定される。

火山性地震の発生状況に特に変化はなく、火山性微動は観測されなかった。また、地殻変動観測では火山活動に起因すると考えられる変化はなかった。

3) A 火口は山頂ドームの南東麓、B 噴気孔群は同南西縁に位置する。

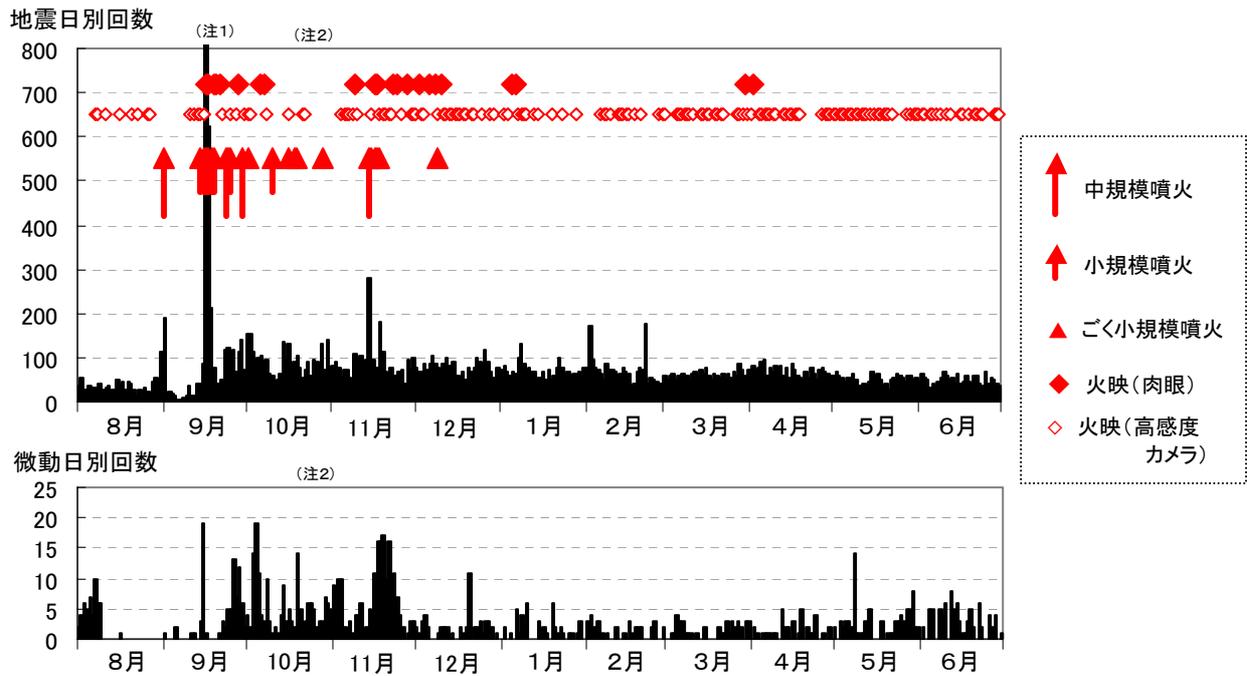
◇ 秋田焼山 （静穏な状況）

新たな噴気活動の目撃情報があったが、調査の結果、火山活動に特段の変化があったことを示すものではないと考えられる。

22 日夕方に、西側山腹の叫沢さけびざわの従来から噴気活動の見られた場所の周辺で、新たな噴気が見つかったとの通報があった。23 日朝に秋田県が実施した上空からの調査によると、これまで噴気が出ていなかった場所で高さ数十 m の白煙が確認された。このため、24 日に上空からの観測⁴⁾と現地調査を行った結果、20～30cm 程度の大きさの割れ目の中で硫黄が燃焼して、そこから高さ 5～6 m の白煙が上がっているのが確認された。また、出口付近では 277℃の高温部が確認された。

その後、25 日及び 30 日に実施した現地調査では白煙及び硫黄の燃焼は認められず、高温が確認された部分の温度も、30 日には通常の地表面温度まで低下していた。

今回の現象は極めて局所的なものであり、短時間で終息していることから、秋田焼山の火山活動に特段の変化があったことを示すものではないと考えられる。



(注1) 9月16日の地震回数は1406回。
 (注2) 10月23日は新潟県中越地方の地震により18～23時の計数不能。

図2 浅間山 2004年8月～2005年6月の噴火、火映、地震及び微動の日別発生状況

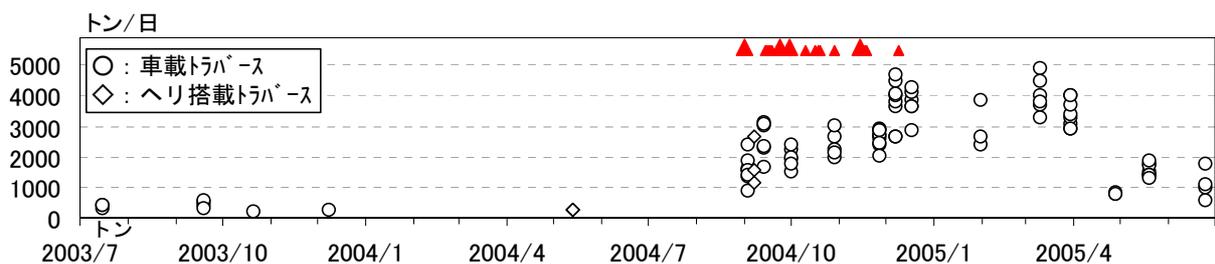


図3 浅間山 二酸化硫黄放出量の推移（1日あたりの量に換算）（2003年7月～2005年6月）
 大きい▲は中爆発、小さい▲は小噴火以下を示す。

4) 上空からの観測は、国土交通省東北地方整備局と気象庁が共同で実施。

◇ 吾妻山（静穏な状況 【火山活動度レベル1】）

地震活動、噴気活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなく、静穏に経過した。

◇ 草津白根山（静穏な状況 【火山活動度レベル1】）

地震活動、噴気活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなく、静穏に経過した。

● 浅間山（やや活発な状況(21日以降) 【21日に火山活動度レベルを3から2に引き下げ

た】）

【噴煙・火映・火山ガス・地震・微動】

昨年9月以降11月まで見られたような爆発的噴火が発生する可能性は低くなったが、噴煙活動は引き続き活発で、微弱な火映がたびたび観測され、火山性地震及び微動のやや多い状態が続いている。

今年4月以降、火山性地震の回数や火山ガスの放出量に減少傾向が見られていたことなどから、昨年9月以降11月まで見られたような爆発的噴火が発生する可能性は低くなったと判断され、21日に火山活動度レベルを3（山頂火口で小～中噴火の可能性）から2（やや活発な火山活動）に引き下げた。

山頂火口からの噴煙活動は引き続き活発で、噴煙高度は概ね火口縁上200～300mで推移した。

また、夜間に山麓の高感度カメラ⁵⁾で微弱な火映がたびたび観測されており、火口内は引き続き高温状態が継続していると推定される（図 2）。

24 日に行った火山ガス観測では、二酸化硫黄の放出量は 1 日あたり約 600～1,800 トンで、今年 4 月以降減少する傾向が見られるが、依然としてやや多い状態が続いている（図 3）。

7 日に上空から行った観測⁶⁾によれば、火口内の状況に特段の変化はなかった。火口内の最高温度は 383℃²⁾で依然として高温状態であった（前回 2 月 9 日は 465℃²⁾）。火口周辺の地形に特段の変化はなかった。

火山性地震の回数は、今年 4 月以降減少する傾向が見られるが、依然としてやや多い状態が続き、1 日あたり 30～67 回で推移した（図 2）。震源はほとんどが山頂火口直下の深さ約 1～3 km に集中しており、前期間までと比べ特段の変化はなかった。15 日に微弱な空振を伴う振幅のやや大きな低周波地震が発生したが、天候不良のため噴煙の状況は不明で、その他の観測データには特に変化は見られなかった。火山性微動の回数もやや多い状態が続いており、1 日あたり 0～8 回で推移した（図 2）。

傾斜計及び GPS による地殻変動観測、光波測距観測では火山活動に起因すると見られる変化はなかった。

5) 気象庁及び国土交通省関東地方整備局利根川水系砂

防事務所が山麓に設置。

6) 群馬県の協力により気象庁と産業技術総合研究所が共同で実施。なお、14 日に長野県の協力により、気象庁と東京大学地震研究所が共同で実施した上空からの観測では、天候不良のため火口内、火口周辺の状況ともに不明であった。

◇ 伊豆大島（静穏な状況 【火山活動度レベル 1】）

地殻変動観測では、長期的な山体の膨張傾向は継続しているが、地震活動、噴煙活動等の観測データには特段の変化はなく、静穏に経過した。

● 三宅島（やや活発な状況）

〔噴煙・火山ガス〕

多量の二酸化硫黄の放出が続いた。

噴煙活動は引き続き活発で、白色噴煙が山頂火口から連続的に噴出した。期間中の噴煙の最高は火口縁上 500m であった（前期間の最高は火口縁上 700m）。

7 日に警視庁の協力により上空からの観測を実施した。火山ガスの観測では、二酸化硫黄の放出量は 1 日あたり 2,500～4,300 トンと依然として多い状態であった（図 4）。山頂火口内の状況は雲のため不明で、火口周辺には大きな変化はみられなかった。なお、三宅村の火山ガス濃度観測でも、山麓でたびたび高濃度の二酸化硫黄が観測

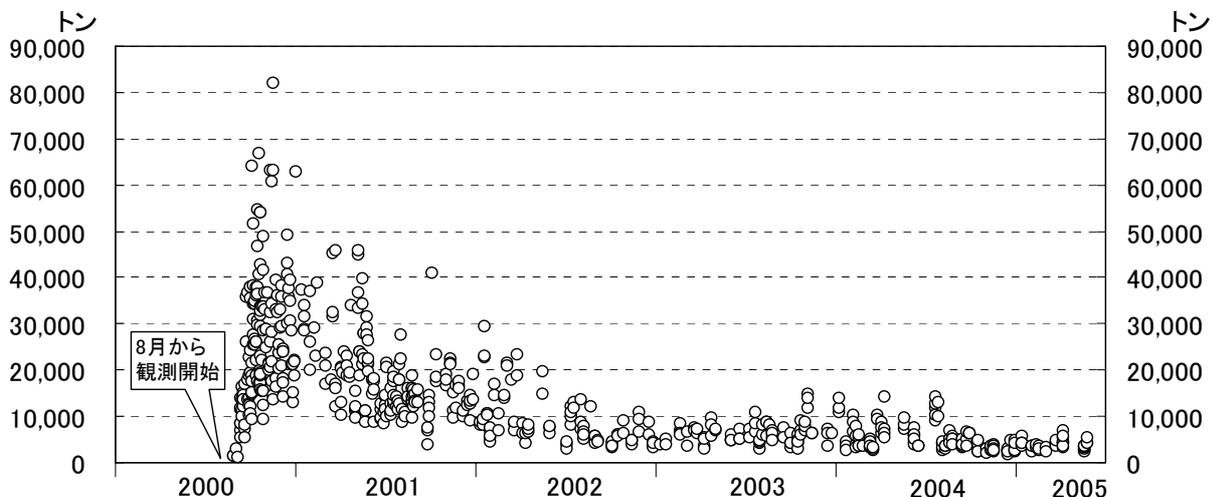


図 4 三宅島 二酸化硫黄の放出量（1日あたりの量に換算）（2000年8月～2005年6月）
2004年秋以降は1日あたり2千～5千トン程度で、依然として多い状態が続いている。

されている。

全磁力の連続観測では特に変化はみられず、地下の熱的な状態に大きな変化はないものと考えられる。

地震回数は、やや少ない状態が続き、1日あたり0～24回で推移した。

G P Sによる地殻変動観測では、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなりながら、現在も継続している。

◇ 九重山（静穏な状況【火山活動度レベル1】）

地震活動、噴煙活動とも静穏であった。その他の観測データにも特段の変化はなかった。

● 阿蘇山（やや活発な状況【火山活動度レベル2】）

【赤熱⁷⁾・熱・土砂噴出・微動】

中岳第一火口浅部の熱活動は引き続き活発な状態が続いており、火口底の一部では引き続き赤熱現象⁷⁾が観測された。

現地観測⁸⁾によると、中岳第一火口（以下、火口）では、夜間に⁸⁾、前期間に引き続き火口底の

北側の一部に赤熱現象が確認された（図5）（赤熱現象は前期間の5月31日夜に初めて確認された）。赤熱の範囲は3日と8日の間でやや拡大したが、8日と15日の間は変化なく、15日と23日の間にわずかに拡大した。火口底温度は赤熱現象が発生している付近で194～236℃¹⁾と高い値が観測された。火口内の湯だまり⁹⁾は、色は黒灰色で推移し、量は期間の始めは約2割であったが、減少傾向が続いて8日以降は約1割となり¹⁰⁾、表面温度は68～75℃¹⁾と依然として高い状態であった（前期間は71～77℃¹⁾）。湯だまり内では引き続き高さ2～5mの土砂噴出が多数観測された。

4月16日（期間外）から振幅の大きくなっていった火山性連続微動は、6月6日未明から振幅が小さくなった。微動の振幅は10日夜～14日未明に一時やや大きくなったが、その他の期間は小さい状態で経過した。10～14日の振幅増大時に、その他の観測データには特に変化は見られなかった。

孤立型微動の月発生回数は1,843回と前期間（3,269回）より減少した。火山性地震の月発生

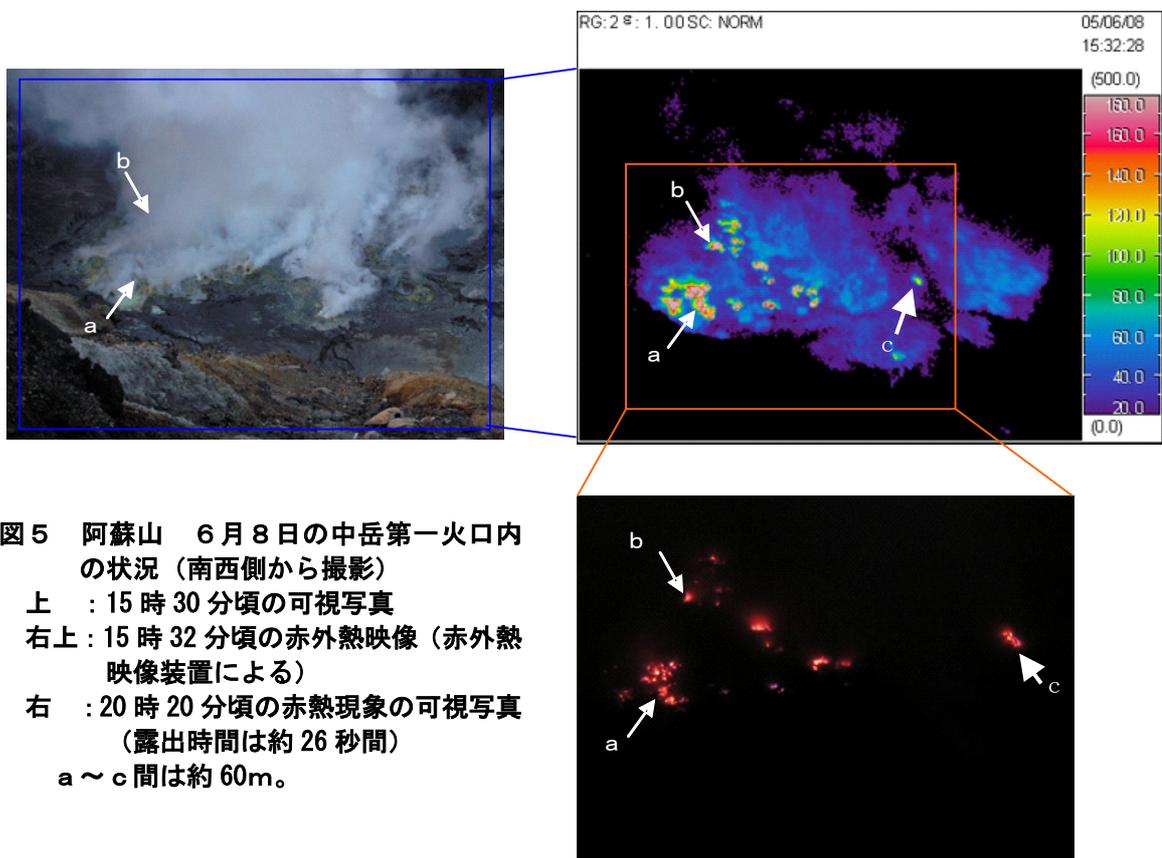


図5 阿蘇山 6月8日の中岳第一火口内の状況（南西側から撮影）
 上：15時30分頃の可視写真
 右上：15時32分頃の赤外熱映像（赤外熱映像装置による）
 右：20時20分頃の赤熱現象の可視写真（露出時間は約26秒間）
 a～c間は約60m。

回数は 298 回で引き続き少ない状態で経過した（前期間は 216 回）。

噴煙の状況には特段の変化はなく、GPS による地殻変動観測及び今期間実施した全磁力の繰り返し観測でも火山活動に起因する変化はみられなかった。

- 7) 地下から高温の火山ガスなどが噴出する際に、周辺の地表面が熱せられて赤く見える現象。阿蘇山では、赤熱域が拡大すると、火孔が開孔し、噴火活動が活発化したことがある。
- 8) 現地観測を 2、4、8、15 及び 23 日に実施。夜間の観測は、3、8、15 及び 23 日に実施。
- 9) 湯だまり：活動静穏期中岳第一火口内には、地下水などを起源とする約 50～60℃の緑色のお湯がたまっており、これを湯だまりと呼んでいる。火山活動が活発化するにつれ、湯だまり温度が上昇・噴湯して湯量の減少がみられ、その過程で土砂を噴き上げる土砂噴出現象等が起り始めることが知られている。
- 10) 湯だまり量は、7月6日（期間外）の観測では、降水の影響により約 4 割に増加していた。

◇ 雲仙岳（静穏な状況【火山活動度レベル 1】）
地震活動、噴煙活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなく、静穏に経過した。

● 霧島山

御鉢（やや活発な状況【火山活動度レベル 2】）
[噴気]

御鉢火口内で 2003 年 12 月に確認された噴気孔からの噴気活動は、消長を繰り返しながらも依然としてやや活発で、火口縁上 50～400m まで上がる噴気が時々観測された。

地震活動は低調で、火山性微動は観測されなかった。GPS による地殻変動観測では火山活動に起因する変化はみられなかった。

新燃岳（静穏な状況【火山活動度レベル 1】）

地震活動は低調で、火山性微動は観測されなかった。

▲ 桜島（比較的静穏な噴火活動【火山活動度レベル 2】）

[爆発・噴火・降灰・深部低周波地震・地殻変動]

今期間、爆発的噴火（以下、爆発）が 1 回観測された。爆発は 2 日 07 時 36 分に発生したが、噴煙等は悪天のため不明であった。爆発が観測されたのは今年 1 月 23 日以来であった。この爆発の他、ごく小規模な噴火は時折発生しており¹¹⁾、鹿児島地方気象台（南岳の西南西約 11km）で 8 日に、1 m²あたり 1 g 未満の微量の降灰量が観測された¹²⁾。同気象台で降灰が観測されたのは今年 1 月 23 日以来であった。

火山性地震は少ない状態で推移した。また、桜島直下 20～30km 付近では時折深部低周波地震が発生しているが、25 日 16 時 23 分に南岳の南南東約 4 km、深さ海面下 23km で発生した地震は、2000 年 10 月に深部低周波地震の観測が行えるようになって以降で最も規模の大きなものであった（マグニチュード 2.1（暫定値））。

GPS による地殻変動観測では、長期的な東西方向のわずかな伸びの傾向が続いている。

- 11) 桜島では噴火活動が活発なため、噴火のうち、爆発的噴火もしくは一定の規模以上の噴火を桜島の噴火の回数として計数している。
- 12) 降灰量は前日 09 時～当日 09 時の総量を観測している。

● 薩摩硫黄島（やや活発な状況【火山活動度レベル 2】）

火山活動はやや活発な状態が続いている。今期間は、火山性地震及び微動が時々発生したが、地震活動は概ね低調で、噴煙活動等の観測データにも特段の変化はなかった。

6 月 26 日に実施した全磁力繰り返し観測では、火山活動に起因すると思われる変化は見られなかった。

● 口永良部島（やや活発な状況【火山活動度レベル 2】）

[地震・微動]

火山性地震及び微動の活動は、消長を繰り返しながら、やや多い状態が続いている。今期間は、火山性地震は月回数 61 回（前期間は 100 回）、火山性微動は継続時間の短いものが時々発生し月回数は 28 回（前期間は 35 回）であった。微動は下

旬に振幅の大きなものが発生した。

監視カメラ¹³⁾による観測では、噴気は観測されなかった。

13) 新岳の北西約 4 km に設置。

▲ 諏訪之瀬島（活発な状況【火山活動度レベルは 3】）

[噴火・爆発・微動]

前期間に始まった活発な噴火活動は 3 日まで続いた。

5 月 30 日（前期間）から活発であった噴火活動は 6 月 3 日まで続き、爆発的噴火（以下、爆発）が今期間も 6 月 1 日に 7 回、2 日に 2 回、3 日に 1 回観測された。5 月 30 日～6 月 3 日の爆発回数合計は 20 回であった。その後、爆発は 7 日に

も 2 回観測された。

十島村役場諏訪之瀬島出張所（以下、出張所）からの報告及び監視カメラ¹⁴⁾の観測によると、期間中の噴煙の最高は 1 日 09 時頃に出張所から確認された火口縁上 3,000m であった。出張所によると、期間中、集落（御岳の南南西約 4 km）で降灰はなかった。

火山性連続微動は、振幅のやや大きいものが、噴火活動の消長に伴って期間の初めから 3 日朝まで断続的に観測された。その後はしばらく観測されなかったが、30 日に再び観測され始め、7 月（期間外）に入っても続いている。

14) 御岳の北北東約 25km の中之島に設置。

資料 1 過去 1 年間の火山活動の状況

火 山 名	平成16年 (2004年)						平成17年 (2005年)						
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
雌阿寒岳			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
十勝岳			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
樽前山			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
草津白根山						●						●	
浅間山	●	●	▲	▲	▲	▲	●	●	●	●	●	●	●
伊豆大島	●												
三宅島	●	●	●	●	▲	▲	●	●	●	▲	▲	●	
伊豆鳥島	●	●		●					●				
西之島				●									
福德岡ノ場		●	●	●	●		●	●	●			●	
阿蘇山	●	●	●	●	●	●	●	●	●	▲	●	●	●
霧島山	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
桜島	▲	▲	●	●	▲	▲	▲	●	▲	▲	▲	▲	▲
薩摩硫黄島	●	▲	▲	▲				●	●	●	●	●	●
口永良部島	●	●					●	●	●	●	●	●	●
諏訪之瀬島	▲	●	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
硫黄島	●	●								●			

表 1 過去 1 年間に活動があった火山

▲：噴火した火山

●：活動が活発な状態にあるか、もしくは観測データ等に変化のあった火山

火 山 名	平成16年 (2004年)						平成17年 (2005年)						
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
吾妻山								①	①	①	①	①	①
草津白根山								①	①	①	①	①	①
浅間山	②→①→②	②	②→③	③	③	③	③	③	③	③	③	③	③→②
伊豆大島	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①
九重山								①	①	①	①	①	①
阿蘇山	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②→③	③→②	②
雲仙岳	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①
霧島山（新燃岳） （御鉢）								①	①	①	①	①	①
桜島	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②
薩摩硫黄島								②	②	②	②	②	②
口永良部島								②	②	②	②	②	②
諏訪之瀬島								③	③	③	③	③	③

表 2 過去 1 年間の各火山の火山活動度レベル

資料 2 2005 年 6 月の火山情報発表状況

火山名	情報の種類及び号数	発表日時	概要
浅間山	火山観測情報第 155 号 ↓（1 日 1 回発表） 火山観測情報第 174 号	1 日 16:00 ↓ 20 日 16:00	前日及び当日 00 時～15 時の活動状況（噴火はなし、噴煙・火映・地震・微動・地殻変動の状況・上空からの観測結果（161 号）及び上空の風の予想）。レベルは 3。
	火山観測情報第 175 号	21 日 17:30	昨年 9～11 月までに見られたような爆発的噴火発生の可能性が低いと判断されたことから、レベルを 3 から 2 に引き下げた。第 101 回火山噴火予知連絡会の統一見解。
	火山観測情報第 176 号	24 日 16:00	6 月 20 日～24 日 15 時の活動状況（噴煙・火映・地震・微動・地殻変動の状況）。レベルは 2。
三宅島	火山観測情報第 301 号 ↓（1 日 2 回発表） 火山観測情報第 360 号	1 日 09:30 ↓ 30 日 16:30	前日 15 時～当日 09 時もしくは当日 09～15 時の活動状況及び上空の風の予想。
	火山観測情報第 28 号	1 日 11:30	やや活発な火山活動が継続（赤熱現象を確認、連続微動継続、湯だまりの表面温度高い）。レベルは 2。
阿蘇山	火山観測情報第 29 号	3 日 11:20	やや活発な火山活動が継続（火口底の一部高温）。レベルは 2。
	火山観測情報第 30 号	10 日 11:35	やや活発な火山活動が継続（赤熱域やや拡大、湯だまり量約 1 割に減少）。レベルは 2。
	火山観測情報第 31 号	17 日 11:00	やや活発な火山活動が継続（赤熱域、湯だまりの状況に変化なし）。レベルは 2。
	火山観測情報第 32 号	24 日 11:10	やや活発な火山活動が継続（湯だまりの状況に変化なし）。レベルは 2。
諏訪之瀬島	火山観測情報第 2 号	31 日 09:50	昨日（30 日）から噴火活動活発（爆発的噴火が発生）。レベルは 3。
	火山観測情報第 3 号	1 日 14:30	活発な噴火活動が継続。レベルは 3。
	火山観測情報第 4 号	6 日 11:10	活発な噴火活動収まる。レベルは 3。

資料3 第101回火山噴火予知連絡会コメント 及び統一見解

平成 17 年 6 月 21 日、第 101 回火山噴火予知連絡会が開催され、同連絡会は、最近の全国の火山活動について委員及び関係機関からの報告をもとに取りまとめ、終了後、気象庁から以下のとおり発表した。

第 101 回火山噴火予知連絡会 全国の火山活動について

浅間山では、火山活動が次第に低下する傾向が認められ、別紙のとおり統一見解を発表しました。

阿蘇山では、4 月 14 日にごく小規模な噴火が発生し、火山活動が活発な状態になりました。それ以降は噴火の発生もなく、5 月上旬以降は火山性連続微動の振幅が小さくなっており、現在はやや活発な状態で経過しています。火口底の一部で赤熱現象が観測されるなど熱的活動は依然活発なことから、今後、火山活動が再び活発化する可能性があります。火山活動の推移に注意する必要があります。

三宅島では、火山活動に全体として大きな変化はなく、二酸化硫黄を含む多量の火山ガスの放出は当分継続すると考えられます。

全国の火山活動状況は以下のとおりです。

1. 北海道地方

- 1) 雌阿寒岳（比較的静穏な状況）
 - ・ポンマチネシリ 96-1 火口の温度の低下傾向が継続して認められ、地震は少ない状態で経過しています。火山活動は比較的静穏な状態となっています。
- 2) 十勝岳（やや活発な状況）
 - ・62-2 火口は噴煙活動に変化はなく、火口内は高温の状態が続いていると推定されます。火山活動はやや活発な状態で経過しています。火口近傍では注意が必要です。
- 3) 樽前山（やや活発な状況）
 - ・A 火口および B 噴気孔群では 400℃以上の

高温が続いています。火山活動はやや活発な状態で経過しています。火口近傍では注意が必要です。

- 4) 有珠山（静穏な状況）
 - ・火山活動に変化はなく、静穏に経過しています。
- 5) 北海道駒ヶ岳（静穏な状況）
 - ・噴気活動や地震活動に変化はなく、火山活動は静穏に経過しています。
 - ・わずかな山体膨張は引き続き観測されています。山頂火口では緩やかな温度上昇や地殻変動にわずかな膨張傾向が認められます。

2. 東北地方

- 1) 岩手山（静穏な状況）
 - ・火山活動に変化はなく、静穏に経過しています。
- 2) 秋田駒ヶ岳（静穏な状況）
 - ・火山活動に変化はなく、静穏に経過しています。
- 3) 吾妻山（静穏な状況 【火山活動度レベル 1】）
 - ・火山活動に変化はなく、静穏に経過しています。
- 4) 安達太良山（静穏な状況）
 - ・火山活動に変化はなく、静穏に経過しています。
- 5) 磐梯山（静穏な状況）
 - ・火山活動に変化はなく、静穏に経過しています。

3. 関東・中部地方、伊豆・小笠原諸島

- 1) 那須岳（静穏な状況）
 - ・火山活動に変化はなく、静穏に経過しています。
- 2) 草津白根山（静穏な状況 【火山活動度レベル 1】）
 - ・5 月に火山性地震が一時的にやや増加し、火山ガスに若干の組成変化や温度上昇が見られましたが、火山活動に大きな変化はなく、静穏に経過しています。

3) 浅間山（やや活発な状況 【本日より火山活動度レベル 2】）

- ・別紙のとおり統一見解を発表しました。
- ・当面、昨年 9 月以降 1 1 月迄見られたような爆発的噴火が発生する可能性が低いことから、本日、火山活動度レベルを 3 から 2 に引き下げました。

4) 御嶽山（静穏な状況）

- ・火山活動に変化はなく、静穏に経過しています。

5) 富士山（静穏な状況）

- ・火山活動に変化はなく、静穏に経過しています。

6) 伊豆東部火山群（静穏な状況）

- ・3 月に火山性地震がやや増加しましたが、火山活動に大きな変化はなく、静穏に経過しています。

7) 伊豆大島（静穏な状況 【火山活動度レベル 1】）

- ・長期的な山体の膨張傾向は継続していますが、火山活動に変化はなく、静穏に経過しています。

8) 三宅島（やや活発な状況）

- ・二酸化硫黄放出量は 1 日あたり 2 千～5 千トンで、依然として多量の火山ガス放出が継続しています。
- ・ごく小規模な噴火が 2 回（4 月、5 月それぞれ 1 回）発生したほか、空振を伴う低周波地震も時々発生しています。
- ・地殻変動の傾向に変化は見られず、浅部での収縮、深部での膨張が続いています。
- ・三宅島では、今後も小規模な噴火が時々発生する可能性はありますが、火山活動には全体として大きな変化はなく、やや活発な状態が継続しています。また、二酸化硫黄を含む多量の火山ガスの放出は当分継続すると考えられます。
- ・今後も局所的に高い二酸化硫黄濃度が観測されることがありますので、風下にあたる地区では引き続き火山ガスに対する警戒が必要です。また、雨による泥流にも注意が必要です。

9) 硫黄島（静穏な状況）

- ・島の中央部の沈降は継続していますが、火山性地震は比較的少ない状態で、火山活動は静穏に経過しています。

4. 九州地方

1) 九重山（静穏な状況 【火山活動度レベル 1】）

- ・火山活動に変化はなく、静穏に経過しています。

2) 阿蘇山（やや活発な状況 【現在は火山活動度レベル 2】）

- ・4 月 1 4 日にごく小規模な噴火が発生しましたが、その後は噴火の発生はありません。
- ・火山性連続微動は、噴火後の 4 月下旬から 5 月上旬にかけて振幅が増大しましたが、現在は小さい状態で経過しています。
- ・火山ガスは 3 月頃から増加傾向にありましたが、ごく最近の観測では低下が認められます。
- ・火口底の湯だまり量は減少傾向で、表面温度も高い状態です。また、火口底の一部で赤熱現象が観測されるなど熱的活動は依然活発な状態です。
- ・火口底の湯だまり内では小規模な土砂噴出が引き続き確認されています。
- ・周辺の GPS による地殻変動観測では、平成 1 6（2 0 0 4）年後半頃から、地下深部に原因があると推定される、ごくわずかな膨張が認められます。
- ・以上のように、ごく小規模な噴火が発生後、火山活動が一時的に活発な状態になりました。その後は噴火の発生はなく、5 月中旬以降火山活動はやや活発な状態にもどっています。
- ・しかし、火口底の一部で赤熱現象が観測されはじめるなど熱的活動は依然活発なことから、今後、火山活動が再び活発化する可能性があります。そのような場合、噴石を火口外に放出するような噴火の可能性があります。火口周辺では注意が必要です。今後の火山活動の推移に注意する必要があります。

3) 雲仙岳（静穏な状況 【火山活動度レベル 1】）
・火山活動に変化はなく、静穏に経過しています。

4) 霧島山
新燃岳（静穏な状況 【火山活動度レベル 1】）
・新燃岳の火山活動は、静穏に経過しています。
御鉢（やや活発な状況 【火山活動度レベル 2】）
・御鉢の火山性地震・微動は少ない状態ですが、時折火口縁を越える噴気が観測されるなど、火山活動はやや活発な状態で経過しています。
・火口内および南側火口縁では注意が必要です。

5) 桜島（比較的静穏な噴火活動 【火山活動度レベル 2】）
・桜島南岳では噴火が発生していますが、桜島の活動としては比較的静穏な状態で経過しています。
・火山性微動及び火山性地震は少ない状態で経過しています。
・GPS や水準測量による地殻変動観測では、始良カルデラ（鹿児島湾奥部）の膨張による変化が引き続き観測されています。

6) 薩摩硫黄島（やや活発な状況 【火山活動度レベル 2】）
・噴火の発生はありませんが、火山性地震は時折やや多い状態になるなど、火山活動はやや活発な状態で経過しています。

7) 口永良部島（やや活発な状況 【火山活動度レベル 2】）
・火山性地震は 1 月から 3 月頃まで増加し、それ以降もやや多い状態で経過しています。
・新岳では、噴気活動が 2 月から活発化し、その後も噴気温度の高い状態が続いていると推定されます。
・全磁力観測では、新岳火口付近の熱的活動の高まりを示す変化が継続して観測されています。
・地殻変動観測では、新岳火口付近の膨張を示す変化が観測されています。
・以上のように、火山活動はやや活発な状態で経過しています。新岳火口付近で熱的活動の

高まりや膨張傾向が見られることから、今後の活動の推移に注意する必要があります。

8) 諏訪之瀬島（活発な状況 【火山活動度レベル 3】）
・噴火は時折発生しており、その中で 5 月 30 日から 6 月 3 日まで爆発的噴火がまとまって発生しました。引き続き火山活動は活発な状態で経過しています。

5. 海底火山

1) 福德岡ノ場（やや活発な状況）
変色水が度々観測されており、火山活動はやや活発な状態で経過しています。

平成 17 年 6 月 21 日
気 象 庁

動の推移を注意深く監視していく必要があります。今後も気象庁の火山活動度レベルの変化に注意する必要があります。

浅間山の火山活動に関する
火山噴火予知連絡会統一見解

浅間山では、火山活動が次第に低下する傾向が認められ、山頂火口付近に影響する程度の小規模な噴火は引き続き発生する可能性があります。現状では、当面、昨年 9 月以降 11 月まで見られたような爆発的噴火が発生する可能性は低いと考えられます。

しかし、火山ガス放出や火山性地震及び火山性微動の活動は依然としてやや活発であり、深部へのマグマ注入によると考えられる地殻変動も観測されていることから、再び火山活動が活発化する可能性があります。引き続き火山活動の推移を注意深く監視していく必要があります。

- (1) 浅間山は昨年 9 月 1 日から爆発的噴火を繰り返しましたが、12 月 9 日を最後に噴火は観測されていません。

山頂火口内には、昨年 10 月以降、新たな溶岩の出現はありません。火口周辺の地殻変動データにも大きな変化はありません。

爆発的噴火直前に山腹の傾斜計で幾度か見られたわずかな傾斜変化は 2 月 22 日を最後に観測されていません。

火山性地震の回数や火山ガスの放出量は今年 4 月以降減少する傾向が認められます。

以上のように、現在の火山活動は昨年の噴火活動期に比べると低下が認められます。山頂火口付近に影響する程度の小規模な噴火は引き続き発生する可能性があります。現状では、当面、昨年 9 月以降 11 月まで見られたような爆発的噴火が発生する可能性は低いと考えられます。

- (2) しかし、高感度カメラで微弱な火映現象がしばしば観測されるなど火口内は高温状態が続いています。火山ガス放出量や火山性地震の回数も減少したものの、依然やや多い状態です。また、火山性微動の活動も依然やや活発です。

周辺部の GPS による地殻変動観測データに見られている、噴火数ヶ月前から始まったゆっくりとした膨張は現在も続いています。これは、深部へのマグマの注入が続いていることによると考えられます。

以上のことから今後再び火山活動が活発化する可能性があります。引き続き火山活

世界の主な火山活動

平成 17 年（2005 年）6 月に噴火の報告された主な火山（日本を除く）は下図のとおりである。
このうち、活動が活発であった主な火山は以下のとおりである。

アナタハン火山（マリアナ諸島）（図中 A）

今期間を通して噴火活動は活発であった。11 日に大きな噴火があり、噴煙が海拔約 14km まで上がった。同火山は 2003 年に有史以来初めて噴火があったが、11 日の噴煙の高さは史上 2 番目であった。

コリマ火山（メキシコ）（図中 B）

今期間を通して噴火活動は活発であった。5 日にやや大きな噴火があり、噴煙が海拔約 9 km まで上がり、火砕流が発生した。6 月 1～2 日及び 6 日の噴火では、約 30 km 離れたコリマ市等で降灰があった。7～13 日には火口付近の住民の避難が行われた。

（以上、米国スミソニアン自然史博物館の GVP（Global Volcanism Program）による。日付は全て現地時間。火山名の読み方は、原則として気象庁：「火山観測指針（参考編）」による。）

